



株式会社 **イチケン**

証券コード：1847

2026年3月期 決算説明会資料

2026年6月2日

人と未来に寄り添う「暮らし空間」を。

ICHIKEN For Your Living Space

	page
I. 2026年3月期 決算概要	3
II. 長期経営計画『ビジョン2035』及び 中期経営計画(2026-2028)の概要	19

I.

2026年3月期 決算概要

事業環境

1. 雇用・所得環境の改善により、緩やかな景気回復が期待されるものの、金融政策による金利水準の上昇や物価上昇、また中東地域を始めとした不安定な国際情勢に伴う地政学リスク等、引き続き今後の状況に注視していく必要があります。
2. 建設業界においては、政府建設投資は堅調で、民間設備投資についても企業収益の改善等を背景に高まりがみられましたが、中東情勢の悪化による建設資材価格の上昇や調達環境の悪化に加え、慢性的な労働力不足による労務費の高騰等、先行き不透明な経営環境が続いております。

当社の取り組み

1. コア事業である「商業施設」建築のノウハウや企画・提案力を生かし、店舗等の新築・内装・リニューアル工事や宿泊施設の建設需要に対して積極的な受注活動を行う。
2. 長期経営計画『ビジョン2030』をローリングし、2026年度を初年度とする新たな『ビジョン2035』、および2026年度から2028年度の3ヶ年を対象期間とする『中期経営計画(2026-2028)』を策定。本計画の経営目標の達成に向けて各種政策を実行。

当期の業績

- 前期第2四半期(中間期)より連結決算に移行
- 受注高は前年同期比で増加し、増収増益
- 過去最高益を更新

(単位:百万円)

	連結 2025年3月期	連結 2026年3月期	前年増減	公表値 ^{※1}	イチケン個別 2025年3月期	イチケン個別 2026年3月期	前年増減	
	金額	金額		金額	金額	金額		
受注高	103,626	119,273	15,647	—	101,716	115,913	14,196	
次期繰越高	90,481	103,861	13,379	—	86,963	101,328	14,365	
売上高	98,999	106,176	7,176	105,000	96,448	101,830	5,382	
内訳	完成工事	98,730	105,893	7,163	—	96,178	101,548	5,369
	不動産事業	269	282	13	—	269	282	13
売上総利益	10,484	13,096	2,611	—	10,044	12,247	2,203	
内訳	完成工事	10,311	12,907	2,595	—	9,871	12,058	2,187
	不動産事業	173	189	16	—	173	189	16
販売費及び 一般管理費	※2 3,649	4,063	413	—	3,297	3,698	401	
営業利益	6,835	9,033	2,198	8,200	6,747	8,549	1,802	
経常利益	6,769	8,954	2,184	8,100	6,677	8,559	1,882	
特別損益	144	155	11	—	140	154	13	
親会社株主に 帰属する当期純利益	4,679	6,408	1,728	5,500	4,687	6,220	1,533	

※1 2026年2月13日に連結業績予想を修正 ※2 子会社株式取得関連費用を含む

種類別内訳①(イチケン個別)

(単位:百万円)

		受注高			完成工事高			次期繰越高			
		2025年3月期	2026年3月期	増減	2025年3月期	2026年3月期	増減	2025年3月期	2026年3月期	増減	
建築 工事	商業施設	58,310	74,027	15,716	43,306	61,836	18,529	40,681	52,872	12,190	
	内訳	物販・店舗	37,633	41,061	3,428	35,703	42,221	6,517	21,906	20,746	▲ 1,159
		宿泊施設	18,164	30,522	12,358	5,449	15,540	10,091	16,926	31,908	14,981
		アミューズメント施設	2,512	2,443	▲ 69	2,153	4,074	1,920	1,847	216	▲ 1,631
	住宅	28,812	26,663	▲ 2,148	15,907	23,165	7,258	33,435	36,933	3,498	
	事務所	4,780	7,099	2,319	10,903	6,469	▲ 4,433	5,757	6,387	629	
	工場・倉庫	9,634	4,455	▲ 5,179	25,614	9,875	▲ 15,738	7,002	1,582	▲ 5,420	
	医療・福祉施設	63	21	▲ 42	66	11	▲ 55	-	10	10	
	その他	24	3,582	3,558	331	39	▲ 292	-	3,542	3,542	
	計	101,625	115,849	14,223	96,129	101,397	5,268	86,876	101,328	14,451	
土木工事計	91	64	▲ 26	49	150	101	86	-	▲ 86		
合計	101,716	115,913	14,196	96,178	101,548	5,369	86,963	101,328	14,365		

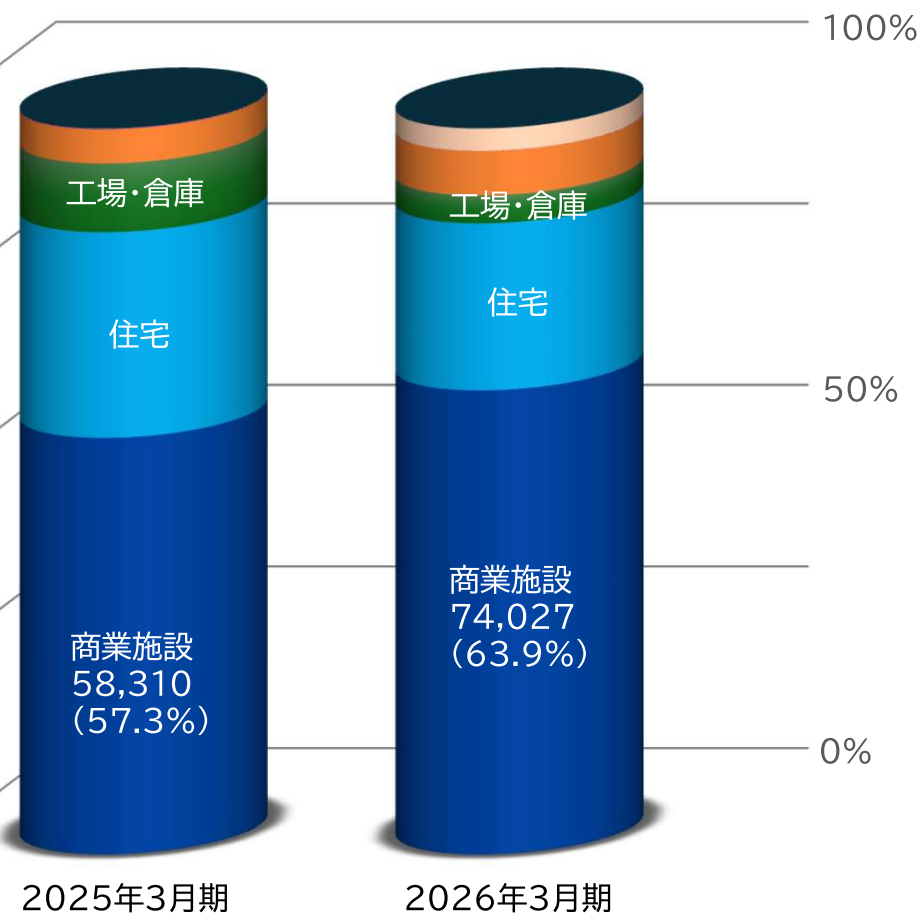
種類別内訳② 受注高(イチケン個別)

■受注高は115,913百万円(前年同期比:+14.0%)

■商業施設を中心とした受注獲得により堅調に推移

(単位:百万円)

	受 注 高					
	2025年3月期		2026年3月期		増 減	
	金額	構成比	金額	構成比	差	比
商業施設	58,310	57.3%	74,027	63.9%	15,716	27.0%
住宅	28,812	28.3%	26,663	23.0%	▲ 2,148	▲ 7.5%
事務所	4,780	4.7%	7,099	6.1%	2,319	48.5%
工場・倉庫	9,634	9.5%	4,455	3.8%	▲ 5,179	▲ 53.8%
医療・福祉施設	63	0.1%	21	0.0%	▲ 42	▲ 66.2%
その他	24	0.0%	3,582	3.1%	3,558	14,814.9%
土木工事	91	0.1%	64	0.1%	▲ 26	▲ 29.5%
合 計	101,716	100.0%	115,913	100.0%	14,196	14.0%



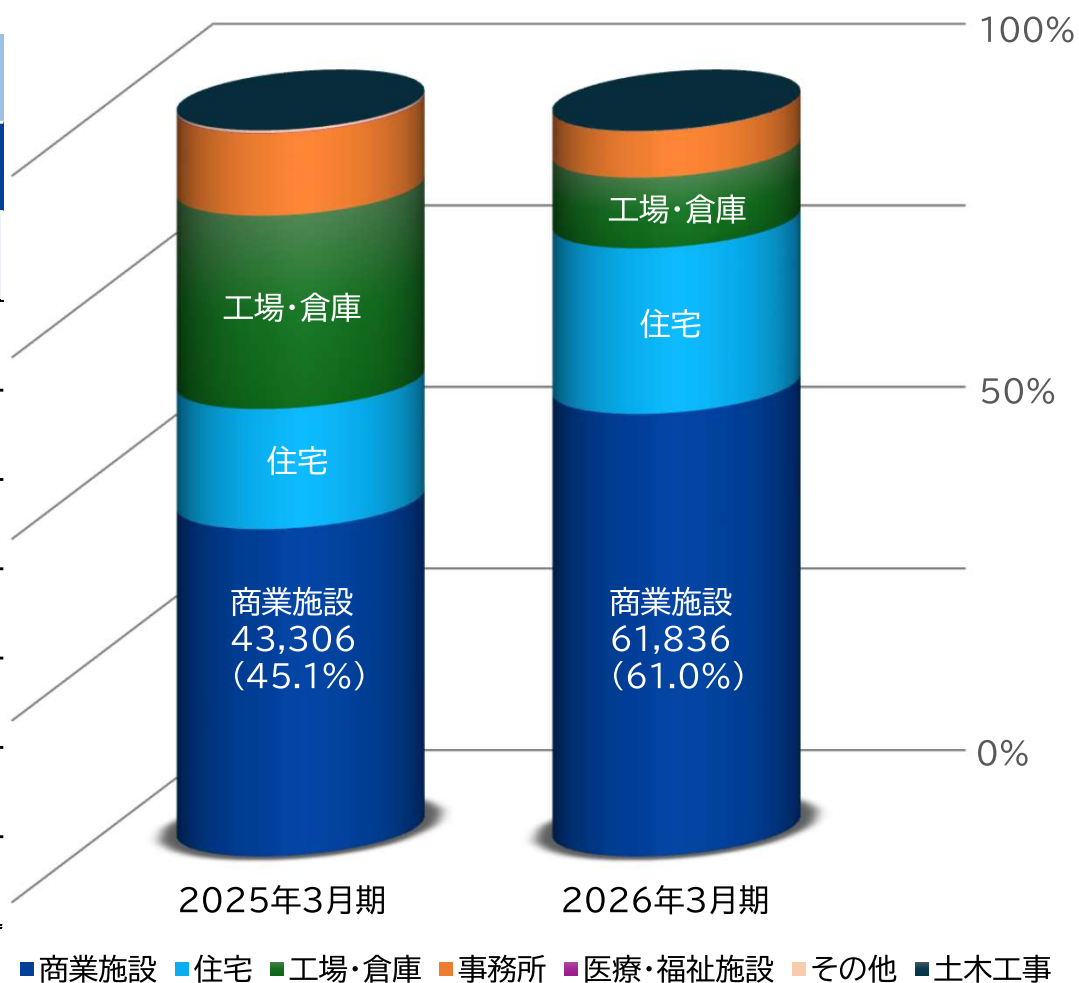
種類別内訳③ 完成工事高(イチケン個別)

■商業施設、住宅を中心に増加、一方で工場・倉庫は減少

※商業施設は61,836百万円(前年同期比:+42.8%/全体の61.0%)

(単位:百万円)

完成工事高						
	2025年3月期		2026年3月期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	差	比
商業施設	43,306	45.1%	61,836	61.0%	18,529	42.8%
住宅	15,907	16.5%	23,165	22.8%	7,258	45.6%
事務所	10,903	11.3%	6,469	6.4%	▲4,433	▲40.7%
工場・倉庫	25,614	26.6%	9,875	9.7%	▲15,738	▲61.4%
医療・福祉施設	66	0.1%	11	0.0%	▲55	▲82.6%
その他	331	0.3%	39	0.0%	▲292	▲88.1%
土木工事	49	0.1%	150	0.1%	101	205.5%
合計	96,178	100.0%	101,548	100.0%	5,369	5.6%



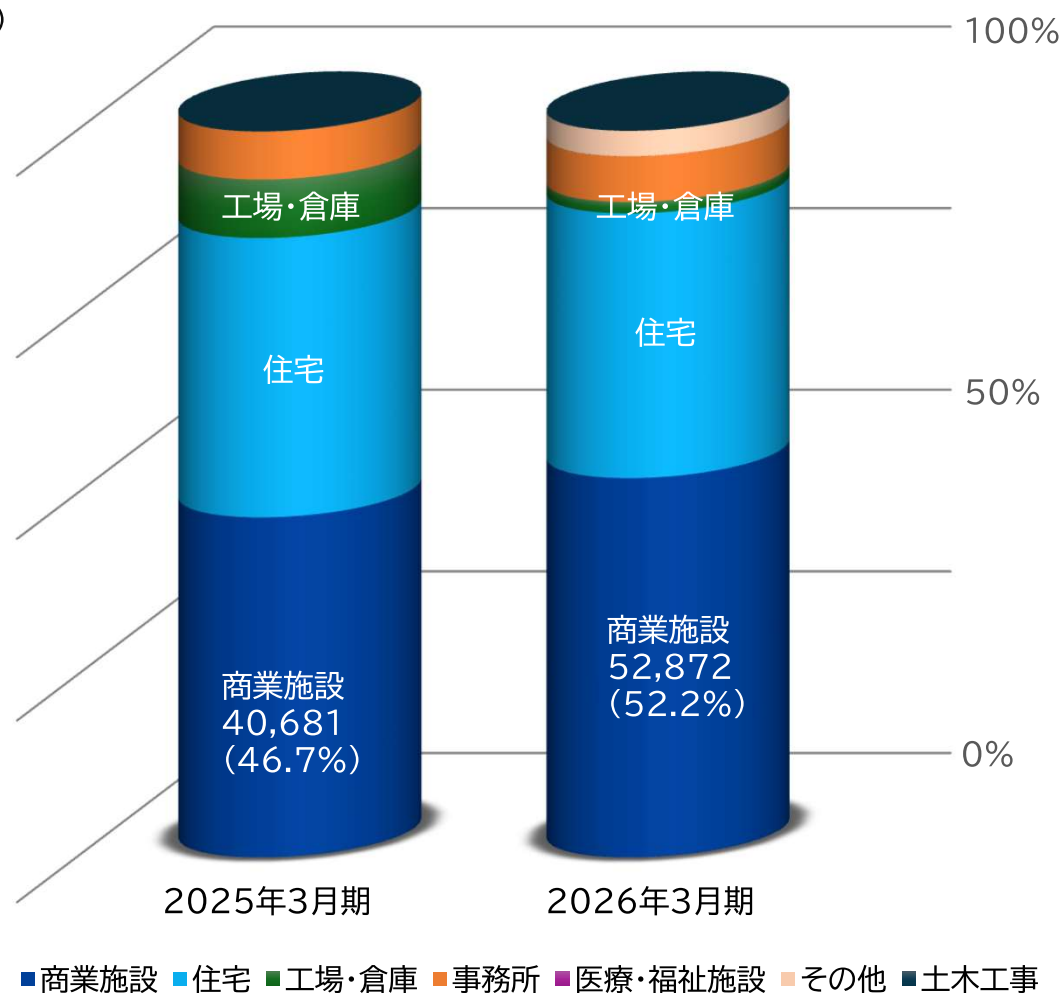
種類別内訳④ 次期繰越高(イチケン個別)

■次期繰越高は、101,328百万円(前年同期比:+16.5%)

※商業施設は52,872百万円(前年同期比:+30.0%/全体の52.2%)

(単位:百万円)

	次期繰越高					
	2025年3月期		2026年3月期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	差	比
商業施設	40,681	46.8%	52,872	52.2%	12,190	30.0%
住宅	33,435	38.4%	36,933	36.4%	3,498	10.5%
事務所	5,757	6.6%	6,387	6.3%	629	10.9%
工場・倉庫	7,002	8.1%	1,582	1.6%	▲5,420	▲77.4%
医療・福祉施設	-	-	10	0.0%	10	-
その他	-	-	3,542	3.5%	3,542	-
土木工事	86	0.1%	-	-	▲86	-
合計	86,963	100.0%	101,328	100.0%	14,365	16.5%



主な完成工事、主な受注工事(イチケン個別)

■ 主な完成工事

工事名	主な建物用途	場所
コスモビューティー神戸工場 (コスモビューティー神戸新築工事)	工場	兵庫県
LOGIPORTAL大正 (LOGIPORTAL大正新築工事)	大型物流施設	大阪府
藍テラス (青梅駅前地区第一種市街地再開発事業)	分譲マンション	東京都
ミラモール東岸和田駅前 (東岸和田駅西口商業施設計画新築工事)	複合商業施設	大阪府
イオンモール津田沼South (津田沼12番街ビル新店工事)	複合商業施設	千葉県
FLAT小平 (小平市小川東町商業計画新築工事)	複合商業施設	東京都

■ 主な受注工事

工事名	主な建物用途	場所
MOP多摩南大沢B街区建替え工事	複合商業施設	東京都
アパホテル&リゾート<札幌駅前>新築工事	宿泊施設	北海道
キャンプ座間・相模原基地ハウジング改修工事	住宅	神奈川県
アパホテル<近鉄四日市駅前>新築工事	宿泊施設	三重県
大阪日本橋ホテル計画新築工事	宿泊施設	大阪府

完成物件



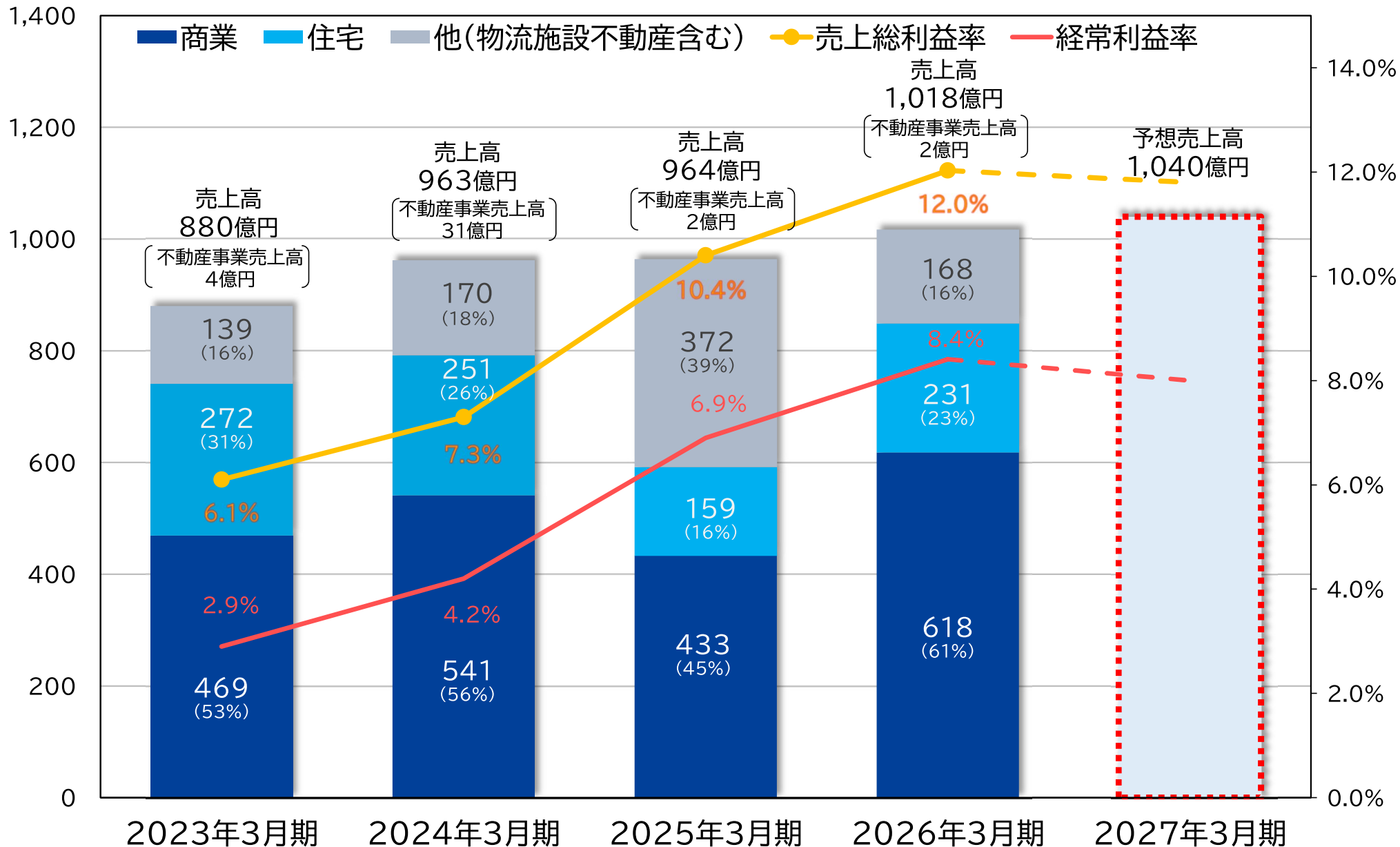
コスモビューティー神戸工場



ミラモール東岸和田駅前

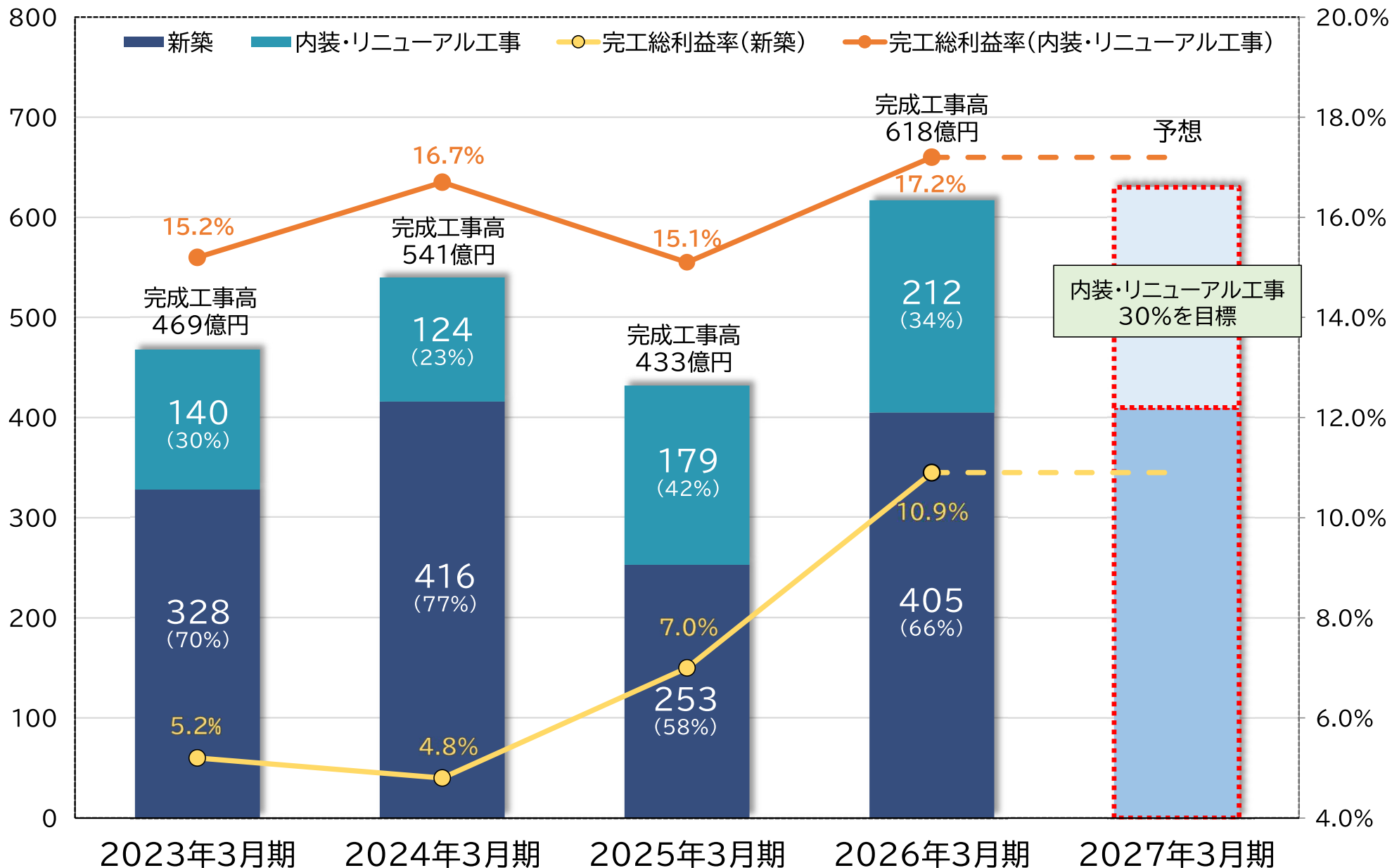
〔種類別〕売上高推移(イチケン個別 2023年3月期~2027年3月期)

(単位:億円)



〔商業施設／新築、内装・リニューアル工事別〕完成工事高推移（イチケン個別 2023年3月期～2027年3月期）

（単位：億円）



連結貸借対照表

(単位:百万円)

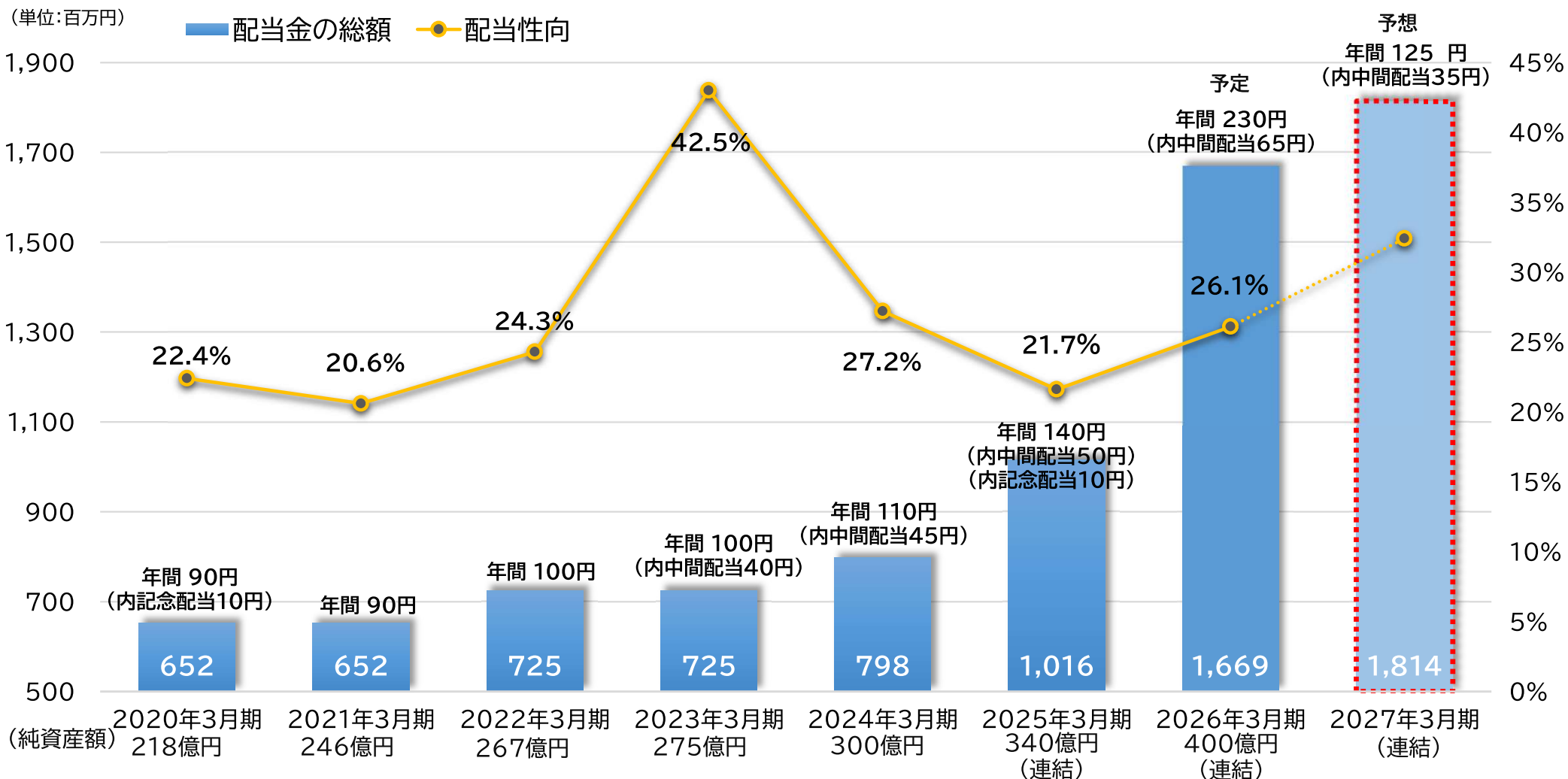
	連結 2025年3月期	連結 2026年3月期	増減		イチケン個別 2025年3月期	イチケン個別 2026年3月期	増減
資産合計	67,584	74,436	6,852		65,169	71,944	6,774
流動資産	62,005	68,376	6,371		58,213	64,223	6,010
固定資産	5,578	6,060	481		6,956	7,721	764
負債合計	33,514	34,415	900		31,098	32,338	1,240
流動負債	27,085	28,852	1,766		24,683	26,499	1,815
固定負債	6,429	5,563	▲866		6,414	5,839	▲575
純資産合計	34,069	40,021	5,951		34,071	39,605	5,533
自己資本	34,047	39,999	5,951		34,049	39,583	5,533
新株予約権	22	22	—		22	22	—

1株当たりの配当額の推移(2020年3月期～2027年3月期)

■成長への投資と安定した株主還元の両立を図る

■2027年3月期の配当予想額は1株当たり125円[中間35円 期末90円]

※2026年4月1日付株式分割(1株→2株)を実施していますが、2020年3月期から2026年3月期までは分割前の配当額を記載しております



重要指標の推移(2024年3月期~2027年3月期)

重要指標

前中期経営計画 (2023-2025年度)

< ROE > < 自己資本比率 >

8%以上 50%以上

< 株主還元 > < 営業利益率 >

配当性向30%程度 5%程度

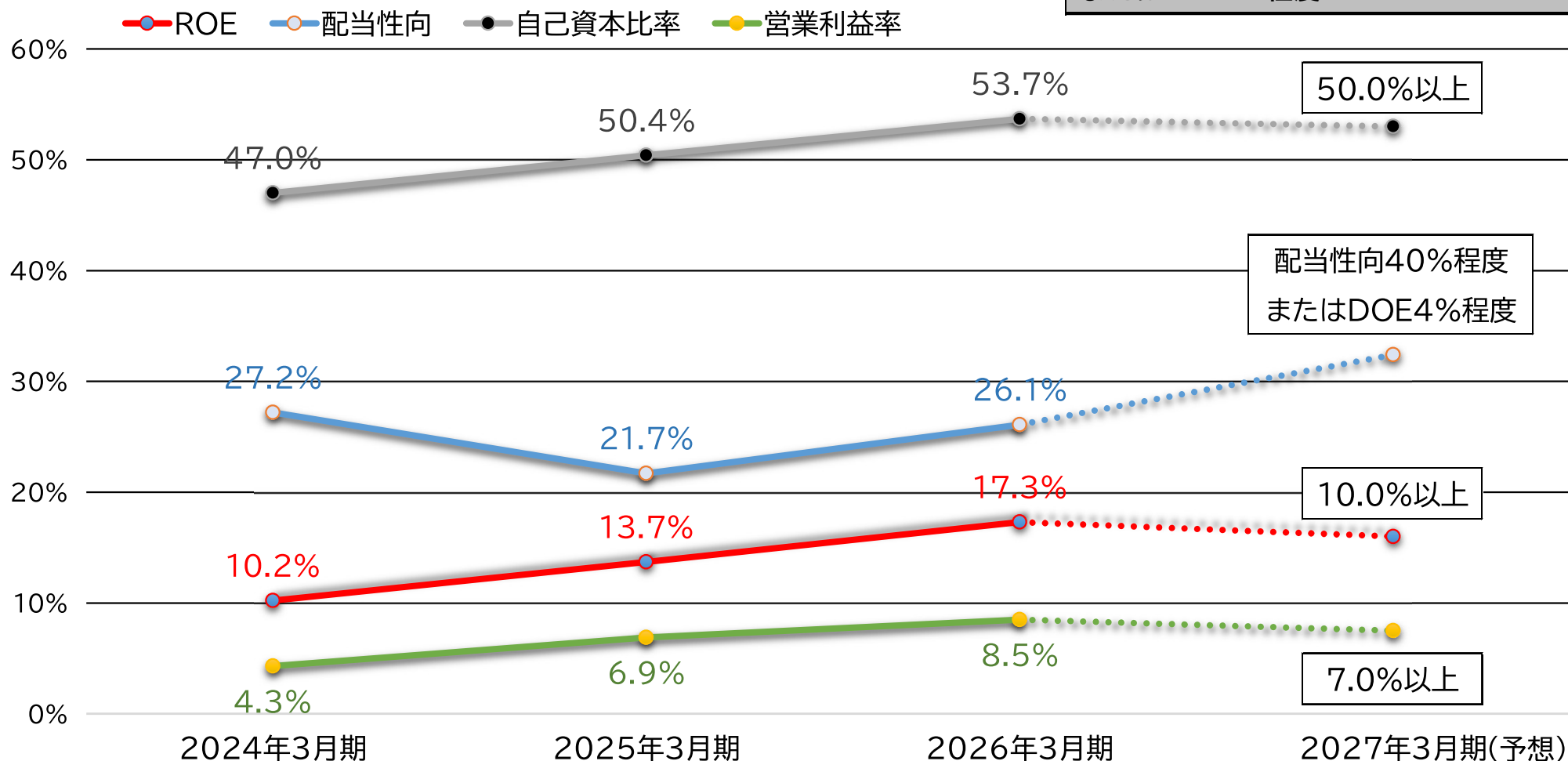
新中期経営計画 (2026-2028年度)

< ROE > < 自己資本比率 >

10%以上 50%以上

< 株主還元 > < 営業利益率 >

配当性向40%程度
またはDOE4%程度 7%以上

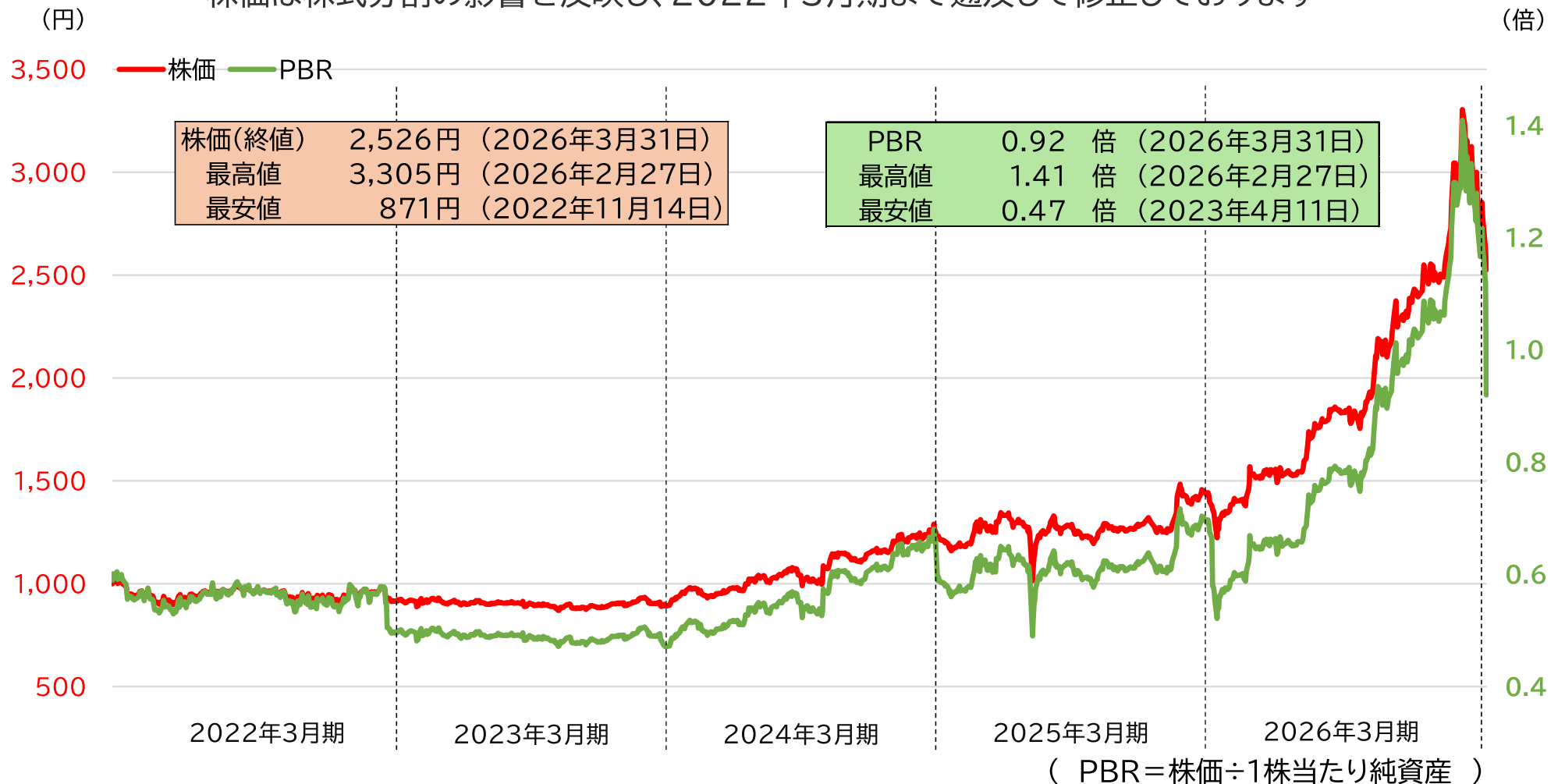


当社の株価の推移(2022年3月期～2026年3月期)

■2026年4月1日付 株式分割(1株→2株)

■PBRの更なる向上に向けて中長期経営計画の数値目標の達成を目指す

・株価は株式分割の影響を反映し、2022年3月期まで遡及して修正しております



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2025年 3月期	2026年 3月期	
営業活動による キャッシュ・フロー	8,144	▲3,232	【営業活動によるCF】 32億3千2百万円 資金の減少 ・税金等調整前当期純利益 + 91億9百万円 ・仕入債務の増加 + 32億6千8百万円 ・未成工事支出金の減少 + 11億4千3百万円 ・売上債権等の増加 ▲ 95億4千円4百万円 ・未収消費税等の増加 ▲ 27億4千2百万円 ・法人税等の支払額 ▲ 28億8千6百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	▲1,353	▲271	【投資活動によるCF】 2億7千1百万円 資金の減少 ・差入保証金の回収による収入 + 1億7千万円 ・投資有価証券の売却による収入 + 1億5千4百万円 ・有形固定資産の取得による支出 ▲ 5億3千2百万円 ・無形固定資産の取得による支出 ▲ 1億2百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	75	▲1,722	【財務活動によるCF】 17億2千2百万円 資金の減少 ・長期借入れによる収入 + 10億5百万円 ・長期借入金の返済による支出 ▲ 15億3百万円 ・配当金の支払額 ▲ 11億2千2百万円
キャッシュ・フロー計	6,865	▲5,225	
現金及び現金同等物の 期末残高※	19,889	14,663	

※3ヵ月超定期預金等の非資金は除く残高

2027年3月期 通期連結業績見通し

- 売上高は、前期比1.7%の増加／販売用不動産の売却を見込む
- 利益は、人件費の増加、特別利益の減少(前期政策保有株式の売却等)により減益見込み
- 配当金は、年間125円を予想(分割前換算:250円で実質20円増配)

(単位:百万円)

	(連結) 2026年3月期 実績	(連結) 2027年3月期 予想	前年増減	増減率	(個別) 2026年3月期 実績	(個別) 2027年3月期 予想	前年増減
	金額	金額			金額	金額	
売上高	106,176	108,000	1,823	101.7	101,830	104,000	102.1
(売上総利益率)	(12.3%)				(12.0%)		
営業利益	9,033	8,500	▲533	94.1	8,549	8,000	93.6
経常利益	8,954	8,400	▲554	93.8	8,559	8,000	93.5
親会社株主に帰属する当期純利益	6,408	5,600	▲808	87.4	6,220	5,430	87.3
1株当たり配当金	230円 中間65.0円 期末165.0円	125円 中間35円 期末90円					

※2027年3月期の株価は分割後の配当額を記載しております(分割前換算:250円)

II.

長期経営計画『ビジョン2035』

及び

中期経営計画(2026-2028)の概要

前中期経営計画(2023-2025)の振り返り

業績 建設事業の増加と保有不動産の売却効果、M&Aによる連結効果により、当初計画を大幅に達成

(百万円)	中期経営計画(2023-2025)			
	期間内 目標値	23年度 実績	24年度 実績*	25年度 実績*
売上高	93,000	96,373	98,999	106,176
建設事業	93,000	93,264	96,179	101,548
不動産事業	-	3,109	269	282
子会社(新規)	-	-	2,551	4,345
営業利益率	5%程度	4.3%	6.9%	8.5%

※2024年度より連結決算に移行

業績向上要因

建設事業

- 採算性と生産性を重視した方針による受注案件の選定
- 商業系顧客発注の大型物流施設受注による売上高の増加
- 労務費の高騰や物価上昇の価格転嫁による受注高の増加
- 商業施設の内装・リニューアル工事の採算向上
- 土木事業会社のM&Aによる連結計上効果

不動産事業

- 販売用不動産の売却により、初年度の業績が増加
- 売却原資による循環投資により新たな物件を取得

財務 投資実行の繰り下げがあったものの、全体として概ね計画を達成

	中期経営計画(2023-2025)			
	期間内 目標値	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績
ROE	8%以上	10.2%	13.7%	17.3%
配当性向	30%程度	27.2%	21.7%	26.1%
自己資本比率	50%以上	47.0%	50.4%	53.7%
投資計画	100億円程度	計画期間の3ヶ年で約76億円		

非財務

人的資本経営

- 「リスク管理委員会」の設置(諮問機関として環境・社会課題・ガバナンスの専門部会を設置)

DXへの取り組み

- 「DX推進部」の設置(PJ体制を発展的に解消し、BIM推進部を統合した専従組織として設置)

サステナビリティ

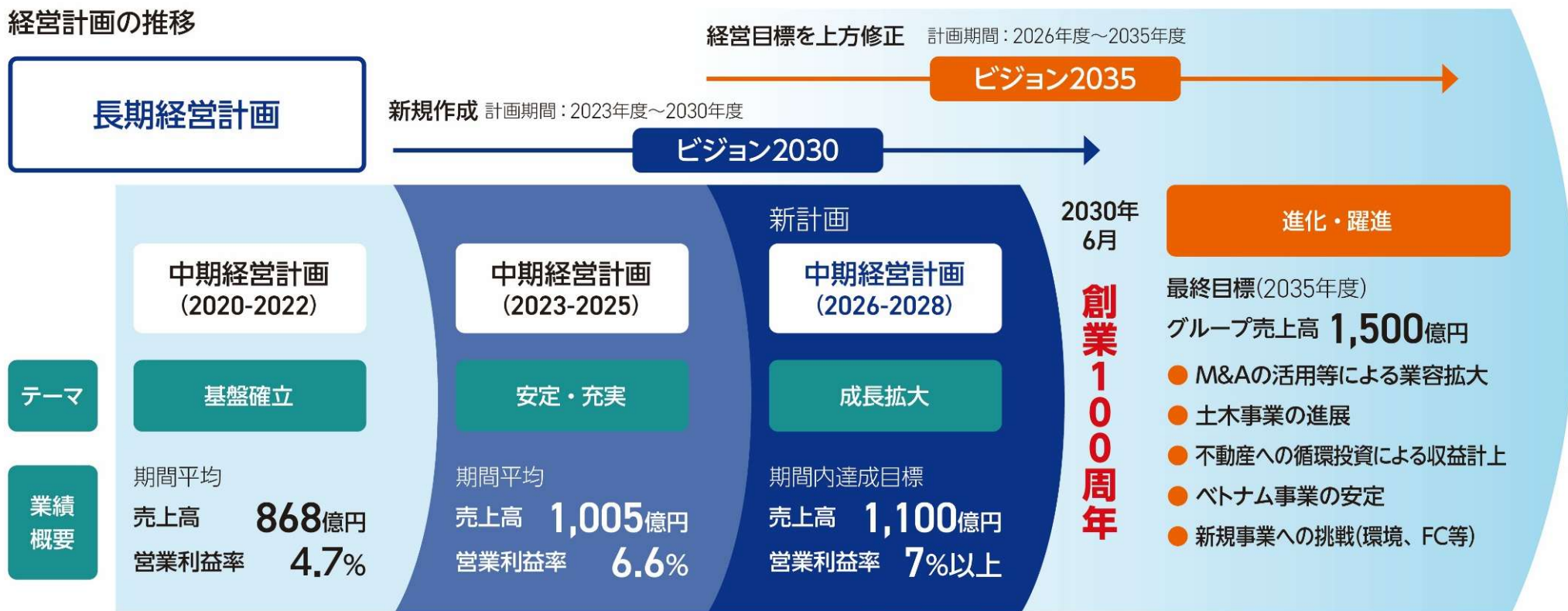
- サステナビリティへの理解を深めるため、「SDGs・ESG」の啓発活動を展開

引用: 統合報告書 P9

企業像(目標とする姿)

安定した成長を続けていくとともに社会の持続的発展に貢献する企業

経営計画の推移



引用：統合報告書 P10

長期経営計画『ビジョン2035』

基本方針

進化・躍進

現状の2026年度以降の経営テーマ「成長拡大」とその先の2035年度への指針として『進化・躍進』を掲げ、当社のパーパスや目標とする企業像の実現をめざして、『ビジョン2030』の基本方針を継続します。

- ① 基幹の建築事業を安定・充実させ、不動産・海外事業を戦略事業として拡充を行い、新規事業を含めた業容の拡大をめざす
- ② 商業空間の建設事業を中核に確実な成長を遂げる
- ③ 技術者集団として品質・安全・環境・原価・生産性を追求する
- ④ 財務基盤の充実と安定を図る
- ⑤ 働きやすい職場を追求し、従業員一人一人の能力と働きがいを向上させる
- ⑥ 社会のニーズに常に対応し、環境の変化に負けない会社となる

経営目標

事業継続性(ゴーイングコンサーン)を強化するための目標設定

項目	ビジョン2030		ビジョン2035
	目標	'23~'25単純平均実績	
売上高	1,000億円	1,005億円	1,500億円
営業利益率	5%程度	6.6%	7%以上
ROE	8%以上	13.7%	10%以上
配当性向	30%程度	25%	40%~45%程度

投資内容

事業拡大と経営基盤の強化—投資内容(投資総額 400億円*)—

※2035年度迄の投資認識の支出ベース

中長期(2026年度~2035年度)の主な検討施策

成長投資

- M&Aを利用した業容拡大
- 土木事業の進展(事業構成比10%目標)
- 新規事業への挑戦(環境分野、FC、SPC活用等)
- 建築技術分野への投資(工法、技術センター設立等)

不動産事業

- 不動産への「循環投資」を継続(安定した収益計上)

海外事業

- 外国籍人材の採用、日系企業の建築ニーズ教育
- M&A等を利用したベトナム現地法人との提携

人材開発

- 施工管理者(現場所長)育成、採用
- 経営や技術分野の高度人材の育成、外部人材の招聘

DX関連

- AIを活用した業務刷新と人材の再配置
- 社内システム環境の再構築(基幹システム等)

引用: 統合報告書 P10

基本方針・事業戦略

「成長拡大」フェーズへ ～ 連結売上高1,000億円台の維持と収益力を強化 ～

基本方針 **成長投資と収益力の強化**

経営目標 **中期経営計画(2026-2028) <期間中達成>**

売上高
1,100億円

営業利益率
7.0%以上

ROE
10%以上

配当性向 **40%**程度 or DOE **4%**程度

投資計画
100億円

事業戦略 **建設事業の強化**

- 注力分野は中核の商業施設の建築、リニューアル工事

建設事業を補完する取り組みの推進

- 不動産事業—建設事業の補完と継続的な投資(循環投資の継続)
- 海外事業—ベトナム事業の体制強化
- 新規事業—既存事業以外からの収益確保を模索(環境分野、FC等)

引用: 統合報告書 P11

財務・資本戦略(財務KPI)

安定配当の実施と内部留保・投資の両立をめざす

株主還元

安定配当を継続

株主還元の基本方針(要約)

事業の成長・拡大による企業価値向上と安定配当に重点を置き、今後の成長・拡大に備えた内部留保の充実を考慮して決定

中期経営計画(2026-2028) 計画期間中の方針

配当性向 **40%**程度 or DOE **4%**程度

中期経営計画(2026-2028)目標

資本効率	ROE	10% 以上
財務健全性	自己資本比率	50% 以上
	D/Eレシオ	0.3 倍以下
株主還元	配当性向	40% 程度
	DOE	4% 程度

財務健全性

自己資本比率50%以上

- 建設業の同規模各社水準並に純資産額を拡充
→当面の純資産額の目標として500億円程度をめざす
- 建設業は協力会社への支払いが先行するため一定の現預金の保持は必要(一般的に月商の2ヶ月程度)さらに、取適法の施行による現金払いへの要望が一段と高まる時流への準備が必要
- D/Eレシオは0.3倍以下
- 投資資金の返済目安としては、当期純利益の30~40%程度

ROE

持続的に株主資本コストを上回る水準を実現

- 中期経営計画(2023-2025)では二桁のROEを実現
- 株主還元と内部留保を両立しつつ、目標ROE10%以上をめざす

引用: 統合報告書 P11

財務・資本戦略(資金配分方針)






安定した収益計上と持続的な成長に向けた取り組みとして、 3年間で100億円の成長投資を実施

※金額は投資認識の支出ベース 金額は概算で状況により柔軟に再配分

2026年度～2028年度累計額

IN	OUT
負債調達 45 億円程度 (注1)	成長投資 100 億円程度
営業CF及び 保有不動産等の 資産売却 110 億円程度	
	株主還元 55 億円前後 (注2)

(注1) M&A等による資金調達は案件により柔軟に実施
 (注2) 投資水準を満たす案件がなかった場合は機動的に株主還元に充当

不動産開発 <ul style="list-style-type: none"> ● 保有物件のコンバージョン(改装・改修)により建物価値を向上 ● 長期保有を含む収益物件の新規取得 	40 億円 
M&A 等 <ul style="list-style-type: none"> ● 事業拡大のためのM&A(建設事業及び周辺分野を軸に検討) ● ベトナム事業の増強(人材確保、ホーチミンC営業所の基盤整備) 	35 億円 
人材開発 <ul style="list-style-type: none"> ● 次世代技術者の教育(担い手育成、BIM、IT対応力の向上) ● 経営や技術面の高度人材の育成、採用 ● DX人材の採用・育成 	15 億円 
DX 関連 <ul style="list-style-type: none"> ● DXのためのIT基盤投資 <ul style="list-style-type: none"> ➔ アナログ情報のデジタル化(デジタイゼーション)を加速 ➔ デジタル技術を活用した業務変革(デジタライゼーション)の進展 	10 億円 
株主還元 <ul style="list-style-type: none"> ● 配当性向 40%程度 or DOE4%程度 	55 億円 

引用: 統合報告書 P12

経営基盤の強化

人的資本経営への 取り組み

企業規模拡大に向けた人材確保・育成のため、 働きがいを実感できる制度や職場環境づくりを推進

従業員の育成……………イチケンの「パーパス」を体現できる創造性豊かで多様な人材育成
離職の防止……………労務管理やDXによる生産性の向上、現場業務の軽減
採用の強化……………多様な人材確保・働き方について柔軟なアイデアの創出
働きがい向上……………生産性向上を通じたワーク・ライフ・バランスの充実・女性活躍推進

DXへの取り組み

デジタルを基盤に業務効率化と生産性向上をめざす 「イチケン版DX」により、成長と拡大をめざす

「進める」

▶ 現場・営業・バックオフィスの観点から、デジタルツールの導入を「**進める**」

「高める」

▶ 従業員一人一人がデジタル化への意識を「**高める**」

「築く」

▶ 次世代の人材育成とデジタル教育強化で持続可能で豊かな未来を「**築く**」

サステナビリティへの 取り組み

地球環境への配慮を最優先に、建設事業者として低炭素・循環型社会の実現を推進し、持続可能な未来に貢献するとともに、安心・安全な職場環境を整え、従業員が長く働き続けられる会社をめざす

重点課題① 安心・安全で働きやすい労働環境の整備で、従業員の満足度向上

重点課題② 人々の「くらし空間」を持続的に維持するため、地球環境への負荷低減に向けた取り組みを推進

重点課題③ 未来の世代も豊かに暮らせるよう、次世代へ建設業の魅力と可能性を伝授(未来を築く力を育てる)



イチケンはSDGsの理念に賛同し、積極的に持続可能な社会への取り組みを推進していきます。

BIM

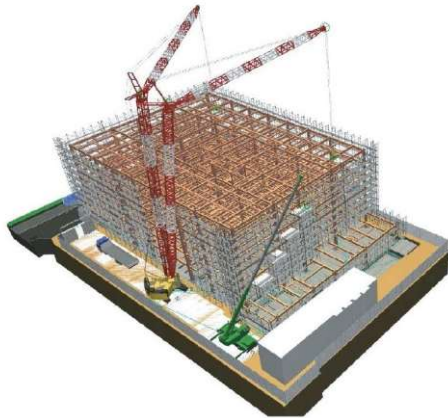
生産性向上と新価値創造につながる技術

2016年より本格的にBIM^{※1}導入をスタート。3D完成予想図により、現場着手前での形状・仕上げ材・照明等のお客様との合意形成はもとより、意匠～構造～設備設計の工種ごとの干渉チェック、仮設計画や鉄骨建方等の施工シミュレーションを行うことで、現場の手戻り削減による無理のない工程管理の実現と施工内容の可視化による安全管理と品質管理の向上に役立っています。

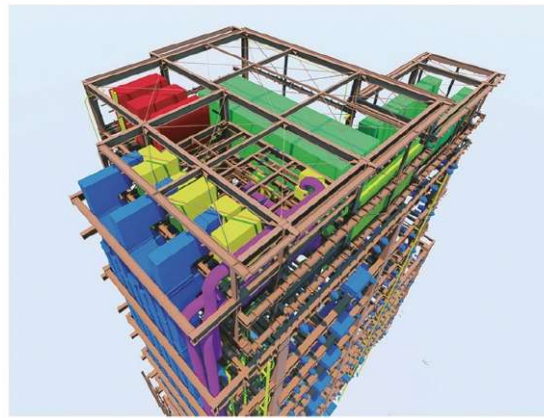
※1：BIM(ビルディング インフォメーション モデリング)とは
コンピューター上に作成した3次元の形状情報に加え、各室の名称・面積・材料・部材の仕様、性能、仕上げ等、建築物の属性情報を併せ持つ建築情報モデルを構築することです。



設計BIM



生産(施工)BIM



積算BIM



3DスキャナーでBIMモデル化

引用：統合報告書 P15

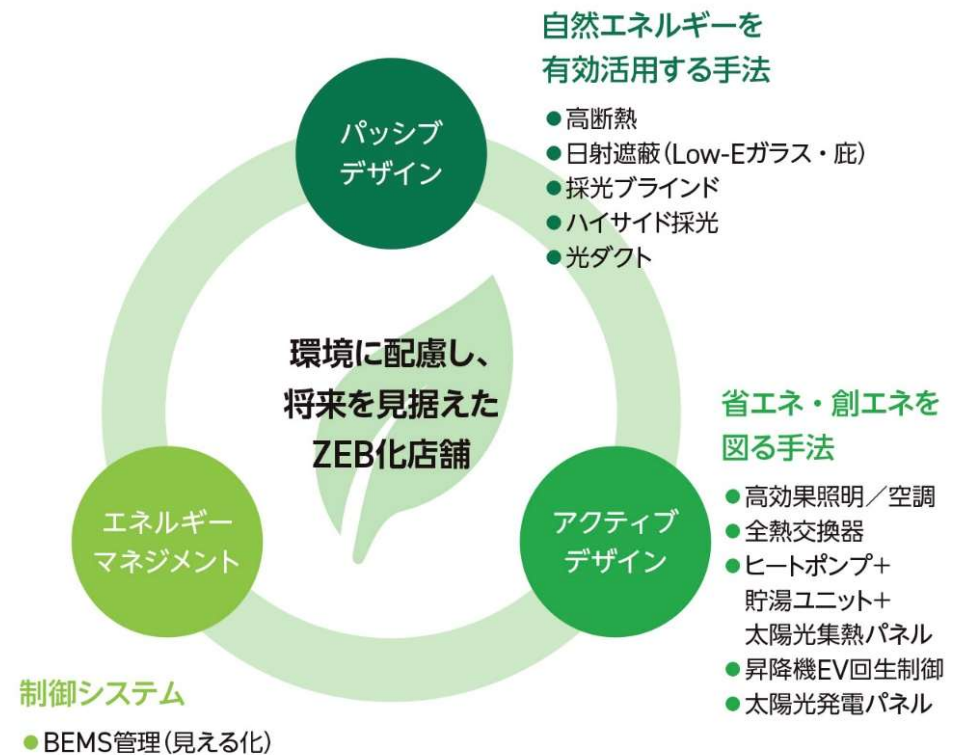
ZEB

人と環境の未来づくりにつながる技術

エネルギー消費量を最小まで削減し、創エネルギーで自給する建物「ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)^{※2}」。CO₂削減目標の達成に向けて、ZEBの普及拡大が求められており、お客様の関心も高まっています。当社も、環境負荷の低減、省資源、省エネルギー等、さまざまな形で省エネルギーと創エネルギーの実現に向け、地球環境にやさしい省エネ建設への取り組みを進めています。また、得意分野の店舗系を中心とした設計・施工案件にZEB化技術を取り込み「環境に配慮し、将来を見据えたZEB化店舗づくり」をご提案し、お客様とともに構築していきます。

※2：ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)とは

自然エネルギーの積極的な活用、高効果な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することによりエネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支を「ゼロ」にすることをめざした建築物です。



引用：統合報告書 P16

コーポレート メッセージ

人と未来に寄り添う「暮らし空間」を。 For Your Living Space

お客様・取引先・地域に暮らす人々・社員とその家族 全てのステークホルダーに対して、快適で豊かな社会の実現と社員の働きがい向上を目指し、「暮らし空間」事業を通じて未来を創造・提案していく企業姿勢をこのメッセージに込めています。



当社ホームページ

動画でわかる!

イチケン

イチケンのこれまでの歩みや、
事業などのさまざまな動画を
ご覧いただけます



- 本資料は、株式会社イチケン(以下、当社)をご理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資活動勧誘を目的としておりません。
- 本資料を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。
- 本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の業績予測ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果があります。

株式会社イチケン
財務経理部 高垣
TEL 03(5931)5642